

農 技 第 1 6 6 5 号
令和 7 年 9 月 11 日

関係各位

兵庫県病害虫防除所長

令和 7 年度病害虫発生予察注意報 第 4 号を發表します。

ハスモンヨトウのフェロモントラップでの誘殺数が平年より多く推移しています。圃場における発生状況に注意して、適切な防除指導をお願いします。

令和 7 年度病害虫発生予察注意報 第 4 号
ハスモンヨトウの発生状況と防除対策について

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1 対象作物 | 野菜類、花き類、豆類 |
| 2 病害虫名 | ハスモンヨトウ |
| 3 発生地域 | 県内全域 |
| 4 発生程度 | 多い |
| 5 発生時期 | 9 月中旬～10 月下旬 |
| 6 発生状況と今後の発生について | |

- (1) 朝来市に設置しているハスモンヨトウ用のフェロモントラップにおいて、平年を上回る誘殺が認められており、8 月 2 半旬～9 月 1 半旬の合計誘殺数は 703 頭と過去 8 年で最多であった(図)。加西市に設置したトラップにおける同期間の合計誘殺数は 956 頭と過去 10 年で 2 番目に多い(図)。
- (2) 8 月下旬に実施した大豆圃場巡回調査では、発生圃場率が 50% (6 地点/12 地点) と多発年であった昨年同時期の 33.3% (4 地点/12 地点) に比べて高かった。白変葉(群棲する若齢幼虫による食害：写真 1 右)も 1 a あたり 1.3 か所と昨年(1.1 か所)と同程度であった。
- (3) 気象庁の近畿地方の 3 か月予報(8 月 19 日発表)によると、9、10 月の気温は平年より高く推移するとされている。本種の活動に好適な条件が続き、幼虫による被害が発生する恐れがある。近年、秋期にも気温が高く推移する傾向にあり、昨年のように 9 月から 10 月にかけて本種の発生が収まらず(図)、被害が長期化することが懸念される。

7 防除上の留意点

- (1) 本種は広食性で、加害作物は、はくさい、キャベツ等の野菜類から、カーネーション、きく等の花き類、大豆、小豆等の豆類と広範囲におよぶ（写真1、写真2）。
- (2) 卵は鱗毛^{りん}で覆われた卵塊で産み付けられ（写真3）、孵化^ふ直後の若齢幼虫は集団で加害する（写真1左、写真2右）。卵塊や分散前の若齢幼虫の早期発見に努め、速やかに捕殺する。
- (3) 成虫の産卵防止対策には防虫ネット（目合4mm以下）、黄色防蛾^が灯、性フェロモン剤（交信かく乱剤）の利用が有効である。
- (4) 近年、秋冬野菜の育苗期や定植直後の被害が増加傾向にある。育苗期には粒剤や水和剤の灌注処理による予防的な防除を心がける。予防的防除を実施していても、本圃^ほへの定植直後から被害が発生することがあるので、特に注意して観察し、幼虫の発生が認められたら速やかに薬剤散布を行う。
- (5) 中・老齢幼虫（写真4）には殺虫剤の効果が低くなるので、薬剤防除は若齢幼虫期に行う。薬剤散布を行う場合は農作物病虫害・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。



写真1 群棲するハスモンヨトウ若齢幼虫（左）と大豆の白変葉（右）



写真2 ハスモンヨトウによるキャベツ被害



写真3 卵塊
(薄茶色の鱗毛に覆われる)

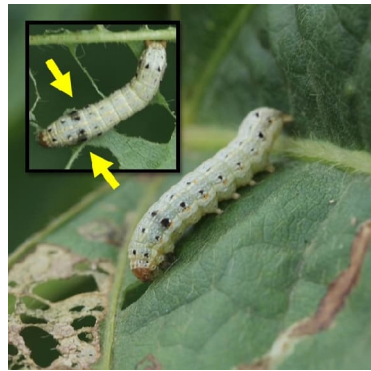


写真4 中齢幼虫 (頭部後方に一対の斑紋)

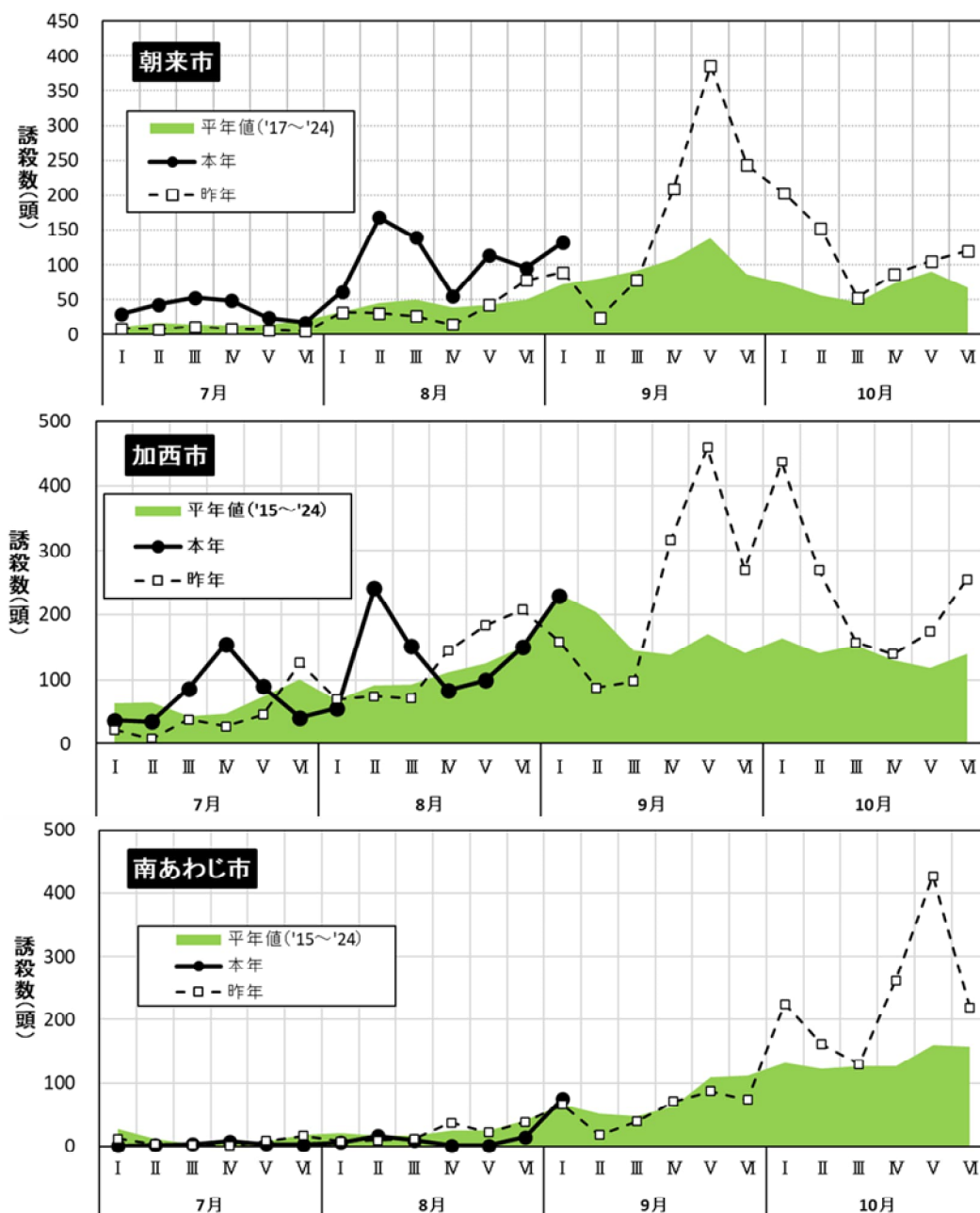


図 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ誘殺数の推移

＊この情報は、兵庫県病虫害防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp>

＊農作物病虫害・雑草防除指導指針は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

＊兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>

問い合わせ先 兵庫県病虫害防除所 0790-47-1222

2022年3月1日より「兵庫県病虫害防除所」X(旧Twitter)を開設しています。

発生予察情報など病虫害に関する情報を速やかに提供しますので、是非フォローをお願いします。

Xアカウント (https://twitter.com/hyogo_boujoshou)

